

## 本ができました！

ベーツ第4代院長（1877～1963、院長在任：1920～40）の言葉を集めた本が5月26日（ベーツの142回目の誕生日）に関西学院大学出版会から刊行されます（A5判 並製 258頁 本体1,900円＋税）。タイトルは、ベーツが自身の生涯をアーノルド・トインビーの「挑戦と応戦」の理論を使って振り返っていることから付けられました。監修者による序文（原文：英語）は、次の言葉で始まっています。



C. J. L. ベーツ (Cornelius John Lighthall Bates) は、関西学院の多くの人にとってお馴染みの名前であるにもかかわらず、彼について知られているのは、スクールモットー”Mastery for Service”の提唱者ということだけです。この傑出したカナダ人宣教師は、学院で過ごした30年間、特に院長を務めた20年間に、関西学院の発展に決して消えることのない、大きな影響を与え

ました。20世紀前半の危機的時代を生きた、この知的で、創造力豊かで、人間的魅力溢れる謙虚な人物の存在とリーダーシップなしに、今日の関西学院を想像することは困難です。

関西学院の歴史に重要な役割を果たしたにもかかわらず、ベーツが書いたものを集め、本にすることはこれまでされてきませんでした。この本により、私たちはようやくベーツ先生のことを先生ご自身の言葉で知ることができるのです。他の宗教や他の文化、他の社会集団に対する彼の後世の姿勢を形作った初期の経験について学ぶことができます。世界の政治、哲学、日本社会、そして関西学院自身の劇的变化について、彼がどう考えていたか知ることができます。教職員や学生に対する深い愛情も感じとれます。彼が学生に使った言葉は、尊敬の念と友情にあふれ、心動かされます。

【学院史編纂室 池田裕子】

## ベーツ宣教師の 挑戦と応戦

C. J. L. Bates, Challenge and Response

ルース・M・グルーベル[監修] 神田健次/池田裕子[編]



### 『ベーツ宣教師の挑戦と応戦』

#### Preface

#### 第1部 翻訳

##### 1. 二つの回想録

過去40年間の関西学院の思い出  
献身60年

##### 2. 三つのメッセージ

講演論説 高等学部のモットー  
”Mastery for Service”

院長室の窓から  
関西学院大学のミッション

##### 3. ラジオ原稿

日本理解

##### 4. 口述筆記

新大陸に来た人びと

#### 第2部 論文・講演

##### 1. 生としてのキリスト教

##### 2. 批評：ヘーリング著『系統神学としてのキリスト教的信仰』

##### 3. ニーチェかキリストか

##### 4. タゴールの宗教

##### 5. 第14回総会での開会の演説

##### 6. キリスト教々育の原理

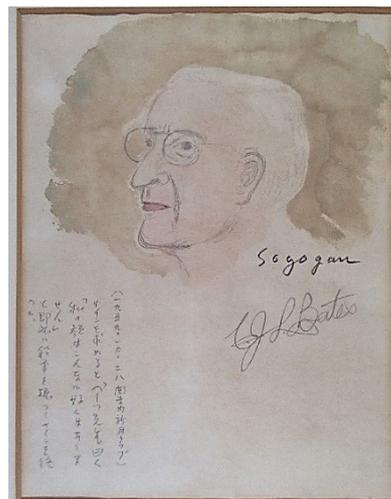
##### 7. キリストの証人

一神学部チャペルにおける講演

#### 第3部 原文（第1部1～3）

家系図・簡易年表

#### Epilogue



教え子の十河巖（本誌2～6頁で紹介）が似顔絵を描いて見せると、ベーツは喜んでサインした（1959年）。

『学院史編纂室便り』第49号（2019年5月20日）

関西学院大学 学院史編纂室 〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155

TEL: 0798-54-6022 FAX: 0798-54-6462

<http://museum.kwansei.ac.jp/archives/>